

わたしの一言

常日頃考えている事や議会や町政についてのご意見などをお聞きました。

県縦断駅伝で3年連続優勝

●若葉町 河内 秀夫 さん

今年の山形県縦断駅伝で地元の寒河江西村山チームが2日目第1位でゴール。苦しい練習を乗り越えて、よく頑張りました。

記事を見ながら60余年前の第1回大会を思い出しました。当時の我がチームにはエースはおりませんでした。私も30才を過ぎ、記録も低下しており、優勝とは下馬評にも上りませんでした。当時、我々には県下に誇れるものは何もない西村山郡でしたが、若者の意気を示そうと一丸となって頑張りました。

幸い私は第1回目の第1区を走り1位でタスキを渡す事が出来、以後3年連続優勝へと繋がりました。この輝かしい成績を出せたのは、選手の皆さんの頑張りはもちろんですが、地元の皆さんの応援の力だと思います。

駅伝は長い距離を走る競技で苦痛の連続です。苦しくなると応援を思い出し苦痛を乗り越えて走りました。合宿中は各地区の教育委員会の方々が次々に激励に来てくれました。なつかしい思い出です。

97才になった今、陸上仲間が訪ねて来てくれるのが楽しみです。



県縦断駅伝でタスキを受ける河内さん

婦人会の大切さを痛感

●白山堂 逸見 三和子 さん

私は現在河北町婦人会長を勤めさせて頂いておりますが、今婦人会は解散の危機に瀕しております。2年後には3分の1位まで減少する見込みです。西村山郡では河北町のみが婦人会活動をしています。



婦人会の活動として昨年の豪雨災害時は、早朝5時からサハトで炊出しをしました。組織があると電話一本で皆集まってくれます。

また、7月豪雨の時、社会福祉協議会の災害ボランティアにも婦人会として参加し、多くの中高生と共に活動しました。疲れて帰って来た時、そば研さんが、ボランティアで冷たい肉そばを振舞ってくださり、ある男の子が「僕あと3杯は食べれるな」と言ったのが印象的でした。皆ニコニコと笑顔になり、疲れが吹き飛んだのを覚えています。

こんな時、婦人会は大切な団体なのだ改めて感じるのです。

ある新聞に「町から老人会・婦人会・青年団が消えています。そういう市町村は、町そのものが消滅してしまう確率が高いのです。」という一文を読んで改めて婦人会の大切さを痛感しています。

●シリーズ● 町民インタビュー

地域商社(株)かほくらし社を上げた方々にインタビューしました。2、3ページをご覧ください。

表紙写真は、三軒茶屋のアンテナショップかほくらしです。

地域商社で町おこし 2P

どうする新型コロナ対策 10P

8人が一般質問

地域に合わせた防災訓練を 17P

<http://www.town.kahoku.yamagata.jp/1050.html>

山形県河北町議会 山形県西村山郡河北町谷地戊81 〒999-3511 ☎0237-73-2119 編集/広報広聴常任委員会

印刷/株式会社武田印刷



広報広聴常任委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 木村 章一 |
| 副委員長 | 吉田 芳美 |
| 委員 | 佐藤 修二 |
| 委員 | 齋藤 隆 |
| 委員 | 細矢 誓子 |
| 委員 | 石垣 光洋 |

新型コロナウイルスの変異株に感染しないようにどう対応するか、ワクチン接種をどのように進めるか、町民のくらしをどのように支えるか、6月議会でも新型コロナウイルスへの対応が主なテーマとなりました。8月から64歳以下のワクチン接種が進む見通しとなりました。たくさんの方の大事な行事などを自粛する期間が、終りに近づいているように思われます。あわてずに、感染防止対策にもうひとがんばりです。(きむら)

編集後記

地域商社 かほくらし社で 河北町おこしへ

河北町を産業で元気にしようと、地域商社(株)かほくらし社が立ち上げられました。先頭で奮闘される会社役員の方々にインタビューしました。

自己紹介とあわせて地域商社(株)かほくらし社の立ち上げのねらいや、目標にしていることなどについて、お聞かせ下さい。

河北町を元気で楽しい町にしたい

(株)べに花の里振興公社 支配人 中野晃洋さん
ひなの湯やひなの宿、湯楽亭などとともに、河北町を元気で楽しいまちにするために関わってきました。

また、ふるさと納税やアンテナショップかほくらしなどでまちの情報発信し、サクランボ、ラ・フランス、リンゴの取り扱いや、



中野晃洋さん

プラネタリウムなど五感で楽しむ観光にもつながるかほくらし社です。会社役員としてしっかりと盛り上げていきます。

とびぬけた事業者の育成もできるのでは

(株)黒田組 社長 黒田元喜さん

建設業として特に農業土木に特化する方向を目指してきました。社内には農事部を立ち上げ、会社所有の畑がありハウスもあって、朝とれた野菜をゆうゆうで提供することなどに取組んできました。農地の基盤整備などを得意とし、農業振興でかほくらし社と協力し、アピールできると



黒田元喜さん

思っています。また、農業関連の地域おこしで、とびぬけた事業者の育成もできるのではないかと考えています。

現状に危機感とこだわりや強い思い

(株)さとゆめ 社長 嶋田俊平さん

私はかほくらし社の副社長として、社長の前田賢之さんや、中野さん、黒田さんとともに、かほくらし社の役員を引き受けました。今回、前田社長はコロナ禍対応で、インタビューは欠席です。私は、アンテナショップかほくらしの立上げに、何もない状態から協力させていただく



嶋田俊平さん

など、河北町とは深いかかわりができていました。河北町には、米、サクランボ、桃、リンゴ、豆、イタリア野菜、肉そば、スリッパなど素晴らしい産品がたくさんあります。さらに素晴らしいのは、生産者や商工会などが現状に危機感があり、こだわりや強い思いを持ってやっていることで、これは結果的に売れるものができると思えました。

今後、かほくらし社はどんなことに取組んでいきますか。

マーケットインで荒波を乗り越えたい

町行政は町外での売込みが不得意です。そして人口減少や少子高齢化といった荒波に直面しつつあります。これをかほくらし社と一緒に乗り越えたいと思っています。方法はマーケットインです。これは、大きな需要が見込めるもの、売れるものを見つけて、それを河北町で生産し、高齢化し従業者が減少する生産現場を活性化し、市場に売り込み、まちおこしをしていくというものです。例えばイタリア野菜もマーケットインです。イタリア野菜は、レストランを中心に需要があり、海外から輸入されていたものに注目し、河北町で生産を始めました。そして、レストランのシェフたちの応援を

受けながら、販売量を増やしてきました。

イタリア野菜の野菜炒めに取組む

中野晃洋さん

河北町のブランドを広げるため、ひなの湯では湯楽亭で、イタリア野菜の野菜炒め定食を考案しテイクアウトに取組んでいます。また、試作中の国産ナチュラルワイン(自然派ワイン)はとても美味しくて、新たな商品として十分に取組めると思っています。

ナチュラルワインと国産ナッツは面白い

嶋田俊平さん

マーケットインの具体的な取組みは、これまでの市場調査から、ひとつは国産ナチュラルワインづくりです。ワインを作るだけでなく、ブドウ栽培やワイナリー(ワインの醸



道の駅河北は入口と出口を分けて
中野晃洋さん
道の駅河北は、電気自動車の充電駐車スペースが足りないと思っています。

町や議会、議員や議会だより、ご意見などをお聞かせ下さい。

ながら進めています。こういった取組みに若い生産者が入ってきて、生活できるようにしていくことを目指しています。

産業を興して町を元気にしたい

黒田元喜さん

国産ナッツは、需要が高く、ほかで取組んでいない面白い取組みだと思っています。一次産業、二次産業、三次産業を興して、町を元気にしたいと思っています。



道の駅は、国道からの入口と、出口は旧町道の方に分けるべきだと思えます。
道の駅の改修や、本格オープンがどうなるか、関心があります。

質疑のページは町の流れ分かります
黒田元喜さん
議会だよりはおもしろく読んでいます。

良い商品の発掘に取組みたい

嶋田俊平さん

これまでも、町議会や議員と話し合う機会がありました。まちおこしがうまくいくように、議員の皆さんは関心が高く、とても熱心でした。

副議長就任あいさつ



細矢 誓子 副議長

議会に関心を持って頂き、今、本町で抱えている様々な課題を、議会と町当局が活発な議論を展開し、議会からも政策提言をしていくべ...

傾向にあります。新庁舎の完成を機会に、町民の皆様にもっともつと議会に関心を持って頂き、議会が身近な存在であると感じて頂けるように努力してまいります。

災害に強い町づくり

総務産業常任委員会

- ① 災害に強い町づくり
② 地方創生を活かした町づくり
③ 令和5年度グラウンドオープン予定の道の駅について
④ 河北創生牽引地域商社支援事業の計画について
⑤ 空き家対策の調査研究について

災害に負けず 分かりやすく読みやすく伝える

去年から続く、新型コロナウイルスとのたたかい、7月豪雨など大災害、この冬の豪雪などが続きました。



広報広聴常任委員会 メンバー: 石垣光洋 委員、齋藤 隆 委員、吉田芳美 副委員長、木村章一 委員長、佐藤修二 委員、細矢誓子 委員

所管課は総務課・新庁舎建設課・企画財政課・税務町民課・農林振興課・商工観光課・会計課・議会事務局・農業委員会事務局です。



総務産業常任委員会 メンバー: 石垣光洋 委員、松田收作 委員、阿部恭平 副委員長、丹野貞子 委員長、木村章一 委員、吉田芳美 委員

安全・安心に暮らせるまちづくり

厚生文教常任委員会

今年度の厚生文教常任委員会は、地域と共に安全・安心に暮らせる町づくりをテーマに、取り組んでいきます。

今年度テーマ

- ① 空き家の利活用
② 地域と連携した除雪事業
③ 子育て支援と学校教育について



厚生文教常任委員会 メンバー: 榎 正義 委員、岡田桂司 委員、齋藤 隆 副委員長、東海林信弘 委員長、佐藤修二 委員、細矢誓子 委員

活動計画

- 空き家の現地調査
○ 地域性にあった除雪事業の展開
○ 学校訪問などによる教育環境の充実
その他、各種団体との意見交換開催など、課題解決に取組みます。

議会活動の活発化で 町民の期待に応える

議会運営委員会

本年度からタブレットの導入、令和3年3月定例会において、議員タブレット端末導入予算が議決され、本格稼働に向け動き出すことになりました。

- タブレットの本格的導入とその準備
○ 町からの協議事項は各委員会で検討時間が十分確保出来るよう求めていく。
○ 各委員会の調査・研究は町民目線に沿って積極的に行う。
○ その取りまとめは、2年目の11月末までに行い提言として議長に提出する。
○ 各委員会の傍聴を促進する。
○ 町民との対話、開かれた議会を目指し、



議会運営委員会のメンバー: 丹野貞子 委員、岡田桂司 委員、松田收作 副委員長、榎 正義 委員長、阿部恭平 委員、東海林信弘 委員

6月議会
3日～8日

6月定例会が開催され30件の議案が提案されました。5月7日には臨時会が開催され、1件の議案が提案されました。また、町議選後2年を経て、副議長や各常任委員会、議会運営委員会などの構成メンバーを改選しました。5月31日にも臨時会が開催され、1件の議案が提案されました。定例会、臨時会のおもな質疑は6～7Pに、議案のおもな内容と、議員の賛否一覧は16Pで紹介しています。

ワクチン接種の業務 多くの時間外で進む



サハトベに花で進むワクチン接種

問 新型コロナウイルスのワクチン接種の業務で、多額の時間外手当が計上されている。

河北町は、順調にワクチン接種が進んでいるが、通常勤務の時間外に接種業務を進める職員や、時間外手当が出ない管理職の健康管理などは大丈夫か。

副町長 ワクチン接種は、手順をしっかりと守り、ひとつもミスが無いように緊張しながら、町職員や支援の皆さんには、がんばってもらっている。



1人に1台ずつ配布されたタブレット

ギガスクールサポーターで ICT化の技術支援

問 小中学校へのタブレット導入で、今回のギガスクールサポーターと、以前に予算計上のICT支援員との関係はどうなるのか。

教育長 ICT支援員

は授業の支援を行い、2人で7つの小中学校を担当する。

ギガスクールサポーターは、教育委員会に机を置いて、システムの不具合などの解決を

技術的に支援する。

町の持続化支援金

受付後は早期に支出を

問 新型コロナウイルスで苦勞なされている町内の業者を支援する、河北町持続化支援金は、対象となる事業者はどういう条件か。

また、申請期間はいつまでか。

受付の窓口はどうか。受付後は、出来るだけ早く支援金を支出すべきではないか。

商工観光課長 昨年までは一昨年の3月から5月までの売上比で、今年3月から5月までが、30%以上減少した事業者には、減少した平均月額の3分の1を30万円を上限に支援する。申請は、6月末日までとし、窓口は商工観光課のほか、商工会にも協力していただく。支援金は、受け付け次第、随時支出する。

直前の工期変更は 町で厳しく対処を

問 新庁舎エネルギー棟の工期について、締め切りの1週間前になってから1か月もの延長は、工程管理の能力が問題ではないか。

前から分かっていたことばかりだ。

本日、5月31日が工期であり、町の段階で工期変更を受け入れず、厳しく対処すべきではなかったのか。

副町長 町では一月以上前から工期を守れるか注視し、会議で確認

してきたが、業者としては何とかできるとの見通しだった。直前での工期変更だが、なんとか認めていただきたい。

吉田地区の警鐘台

ホース乾燥塔に改修

問 吉田地区の警鐘台を更新するとの予算があるが、警鐘台は登る必要がなくなり、撤去する方針ではないのか。

防災危機管理主幹 更新としたが、スイッチが壊れてサイレンが鳴らなくなり、サイレン付きホース乾燥塔に改修することにした。

水防費に

発災想定外の訓練費用

問 水防費に委託料が計上されているのは、何をされるのか。

防災危機管理主幹 災害が発生したことを想定した、訓練のための費用をお願いしている。



プレオープンしている道の駅河北の1階

道の駅1階はワイン工房 R5年4月にオープンへ

問 道の駅河北の改修工事の基本設計費が計上された。

どんな内容で改修し、いつまでの日程で本格再オープンするのか。

商工観光課長 道の駅河北の改修は1階にト

イレを作り、ワイン工房や物販、テイクアウトのスペースにする。

2階は町内や県内のワインを試飲できるコーナーなどにする。3階は、新たなコンセプトのレストランを

考えている。

改修の基本設計に意見が反映できるように、早い段階で、道の駅を運営する指定管理者を決める。

令和4年度に改修工事をして、グランドオープンは令和5年4月を予定している。

家計急変の

子育て世帯に支援

問 子育て世帯生活支援特別給付金はどんな内容で、申請はどうするのか。

いつ支援されるのか。

健康福祉課長 コロナ禍の影響で、仕事が変わるなどで家計が急変している子育て世帯で、住民税非課税世帯に支援する。

18歳までの子ども1人当たり5万円支給だ。対象者の8～9割は申請不要で町から振り込み手配ができる。



ゴムボートも使った水防訓練

8 議員が一般質問

一般質問とは、町長などの執行機関に対し、事務の執行状況や将来の方針などについて、議員個人として問いただすことです。



町政に問題提起や政策提言

10・11P

5番 吉田 芳美 議員

- ①新型コロナウイルスワクチン接種について
- ②新型コロナウイルスで影響を受ける事業者に対する支援金を交付する事業について
- ③防災・危機管理体制の整備強化について

10番 木村 章一 議員

- ①64歳以下の新型コロナワクチン接種は地域順の集団接種を中心にしてはどうか
- ②クラスターを発生させない対策として、抗原検査を効果的に取り入れてはどうか
- ③消防団員の報酬と出勤手当を適切な額に引き上げるべきではないか
- ④「空き家条例」を改正し、行政代執行で空き家の解体などができるようにすべき

12番 細矢 誓子 議員

- ①本町における「ヤングケアラー」の認識と対策について
- ②地域力の育成・向上に向けた本町の支援策について

12・13P

9番 丹野 貞子 議員

- ①寒河江川溝延桜堤を桜の開花時期に合わせ、一方通行規制にすることについて
- ②寒河江川桜堤の桜の剪定計画と河津桜を増やすことについて

11番 石垣 光洋 議員

- ①新型コロナウイルス感染症対策について
- ②農業政策について
- ③自殺対策について

6番 榎 正義 議員

- ①昨年7月の豪雨災害時の避難所開設・運営の検証と今後の対策について
- ②紅花資料館は恒常的に減少が続いている。入館者の回復を図る取組みについて
- ③本町の観光資源であるいもこ列車の運行と「いもこ列車・谷地軌道物語」について

14・15P

7番 阿部 恭平 議員

- ①今後の町の観光について
- ②コロナ禍での経済対策と町全体のモチベーションの向上について
- ③令和2年7月豪雨災害を受けての今後の防災について

3番 齋藤 隆 議員

- ①「河北町建築物耐震改修計画」の改定について

上部のQRコードを読み込んで、議会ホームページの録画中継をご覧ください。

請願審査

〔請願件名〕新型コロナウイルスによる米の需給改善と米価下落の対策を求める請願書

〔請願者〕
農民運動山形県連合会
会長 小林茂樹

〔紹介議員〕齋藤 隆

〔審査結果〕全会一致で採択し、意見書を提出しました。

意見書の概要は左記の通りです。

意見書

新型コロナウイルスの感染拡大による需要の「消失」から2019年産米の過大な流通在庫が生まれた。しかし、政府は有効な手立てをとらず2020年産米

の市場価格は大暴落した。政府は、36万トンの上乗せ「減反」を打ち出したが、とても受け入れられる数量ではない。感染拡大による、さらなる消費減少により、2021年産米の昨年以上の米価下落が危惧されている。

1月末に2021年産備蓄米入札が行われ、わずか30社が1万1000円台という安値で99%近くを落札し、従来の備蓄米取扱い業者は売り先を失い、米市場に新たな混乱を招いている。

このままでは、JAなどの米概算金等も備蓄米落札価格を反映した低水準に下落しかねず、多くの米農家が米づくりから撤退することにつながるかねない。コロナ禍の需要減少による「過剰在庫」分は、国が責任をもって市場隔離すべきであり、そ



稲作は地域経済の柱です

の責任を生産者・流通業者に押し付けることは許されない。政府の責任による緊急買入などの、特別な隔離対策が不可欠である。

同時に、国内需給には必要がないミニマムアクセス米は、毎年77万トンも輸入されている。

国内消費量は30年間で4分の3に減少したにもかかわらず、一切見直されていない。せめて、バター・脱脂粉乳並みに不要なミニマムアクセス米の輸入数量を調整するなど、国内米優先の米政策に転換することが必要である。

コロナ禍という、かつて経験したことのない危機的な事態のなかで、農業者の経営と地域経済を守るため、左記の措置を講じられるよう強く要請する。

- 記
- 1 コロナ禍の需要減少による過剰在庫を政府が緊急に買入れ、米の需給環境を改善し、米価下落に歯止めをかけること。
 - 2 政府が買い上げた米をコロナ禍などによる生活困難者・学生などへの食料支援で活用すること。
 - 3 主食用米から飼料用米等への転換にあたっては、産地交付金などの増額を図り主食用米並みの所得を生産者に補償すること。
 - 4 国内消費に必要なミニマムアクセス米の輸入を、当面、国産米の需給状況に応じた輸入数量調整を実施すること。
- 国の関係各機関に提出しました。

アパート住民への 避難指示は 独自に避難していただく



吉田 芳美 議員

する。住民への防災啓発活動に課題あると認識する。避難所マップは8月に個別に届ける。

問 高南地区に7物件の賃貸アパートがある。外国人含む約100名が居住している。マップでは浸水区域だ。町内会には加入してないので、地域交流は一切ない。よそから来たので避難所も良く理解してない。

答 防災専門員の任用で地域の相談毎に対応する。

問 自主防災会組織が高年齢化と担い手不足により弱体化している。
町長 地域実情に沿い自らお決めいただくこと。

コロナ禍 町の支援策は

問 危機的状況にある飲食店や町民支援策は。
町長 売り上げ3割減事業所に持続化支援金の給付。400社見込む。また、3000円

の商品券を町民全員に配り地域経済の活性化と消費の喚起を促す。

高齢者ワクチン接種 7月末完了目指す

問 65歳以上の高齢者らへの接種完了は。
町長 7月末の予定だ。地域毎の集団接種は町民に安心与えた。

64歳以下で12歳までの接種対応は。
町長 高齢者枠の完了後に順次進めたい。

ワクチン供給量を踏まえ安全かつ迅速に接種出来るよう町医師会等と検討する。



避難要支援者と避難支援者

64歳以下の ワクチンも地域順で 地域間の公平性を 考慮して検討



木村 章一 議員

地域順のワクチン 手間なく早く進む

問 地域順にワクチン接種を進めている河北方式は申し込みの手間無く、早く進み町民も評価している。64歳以下も地域順を中心に、地域間の公平性のため順番を変えて取組んでどうか。
健康福祉課長 地域間

の公平性を考慮し、医師会と相談して検討したい。

問 感染対策に抗原検査の活用を。
町長 新型コロナのクラスター対策に、安価で手軽に感染がすぐ分かる、抗原検査キットを活用してはどうか。

消防団員の報酬 大幅引き上げを

問 町民の生命や財産を守る活動をする消防団員の、報酬を年額1万6500円から3万6500円に、出勤手当を1日2700円から8000円に、消防庁が通達したように、引き上げ見直すべきで



今年度は押切地区で水防訓練を実施しました

はないか。
町長 消防団などと相談しながら、見直しを検討したい。

危険空き家対策を 年度中に計画作成する

問 危険空き家の対策のため、危険空き家の審議会設置や、町が危険回避の工事など、行政代執行ができるようにしてはどうか。
町長 空き家対策を進

める計画を、今年度中に作成して対応したい。

空き家の活用は 視野を全国に広げて

問 空き家の活用を、町内だけではなく全国に呼び掛ける仕組みを活用してはどうか。
都市整備課長 「家いちば」など、多数の仕組みが存在しており、視野を全国に広げる対応を検討したい。

ヤングケアラーは 早期発見が課題 要保護児童対策地域協議会 が有効な仕組み



細矢 誓子 議員

複数の事件を把握

問 本町における「ヤングケアラー」の認識と対策は。

町長 一般的に家族において、大人が担う家事や介護、感情面のサポートなどを日常的に行っている18歳未満の子どもとされている。本町においても複数の事件を把握している。

言葉の認知度は低い

問 ヤングケアラーは一見すれば子どもの手伝いで済まされる行為だが、子ども本人から

SOSを発信しない限り見つけにくい。問題解決には周知が必要だ。周知の方法は。
町長 言葉自体の認知度は低い。国の施策を見極めて支援策などを十分周知して、取組む。

問 要保護児童対策地域協議会が有効な仕組み。
町長 学校や地域での気付きを救済の為にどのようにつないでいくか。

町長 要保護児童対策地域協議会を情報交換の場、改善の手立てを検討する場として「ヤングケアラー」の救済の為に有効な仕組みとなっている。今後も継続して対応する。

地域力の向上策は

問 防災など「地域力」を向上するには、人材育成が大切だ。その方法は。
町長 住民参加を促し、協働して進めて行くプロセスが「地域力」の育成向上につながる。研修会・講座の開催を検討する。

町長 防災専門員の活動を通じて、地域からの相談や町側からも率先して働きかけ、地域全体の推進に努める。

防災専門員の活動で 計画を推進

問 「地域防災計画」の作成時に、支援できる施策は。
町長 防災専門員の活動を通じて、地域からの相談や町側からも率先して働きかけ、地域全体の推進に努める。また、新たに町内会版防災行動計画を作成する区に対して、地域振興総合交付金を支援する。



地域防災についての学習会(若葉町)

溝延桜堤は 開花時期に通行規制を 5日間程度は警察署 扱いで許可可能



丹野 貞子 議員

問 「寒河江川溝延桜堤」は開花最盛時期大勢の花見客で賑わっている。

通行車両も多く溝延橋から三泉橋に向かう車両、三泉橋側から来る車で混み合い危険だという声がある。

開花最盛期5日間程度、一方通行の規制を行い交通安全対策を行

うべき。

町長 例年桜の名所として定着し当町の春における代表的な観光スポットとして大きな役割をはたしている認識している。

5日間程度の通行規制であれば、警察署に対する「道路使用許可」による手続きとして扱えるとの回答だった。

寒河江学園近くの公園に看板設置を

問 開花最盛期間、寒河江学園近くの公園に一方通行規制と、住吉屋方面への迂回路お願いの看板設置をしてはどうか。

町長 行政界をまたぐ寒河江市とも十分な協議を行い、安全確保のための周知・徹底を図る目的で交通規制の看板設置の対応が図られるよう具体的な方法を検討する。

米価下落に町の対策は

おいしい米をPRし 消費拡大へ



石垣 光洋 議員

問 米価下落が予想されるが町としての対策は。

町長 河北町産米がおいしいお米であることPRし、「ふるさと納税」制度の中でも紹介し、消費拡大に努めていく。

応援券事業を実施

問 コロナ禍に対する今後の町の経済対策は。
町長 今後の支援策としては、町民1人当たり3000円分の応援券を世帯ごとに配布し、かほくほく応援券

事業を実施していく。

問 今年のサクランボの生産見通しは。

町長 今年のさくらんぼは、町内の園地の着果数は、過去10年の平均でも最も低い。予想収穫量は、昨年より35・4ポイント低く見込んでいます。

問 所得向上対策は。

町長 苗木購入や雨よけハウス整備に支援し、今後の所得向上に期待している。

命の尊重を

問 自殺の予防について、重点的に取り組む対策は何か。
町長 町の対策として

は、「高齢者」「生活困窮者」「勤務・経営」などについて、重点的に取り組むことが必要と考えている。

問 学校、教育現場における自殺予防は。
町長 「自他のいのちを尊重し、豊かな心と

健やかな体を育む教育を推進する」をきっかけ、各学校で「いのちの教育」の推進に取り組んでいる。
子どもが自分の口から悩みや相談事を話せるよう発達段階に沿った対応の工夫をしている。



すれちがいに苦勞する溝延桜堤

桜の剪定計画と 植え替えは河津桜を

問 桜の剪定計画と早咲き品種河津桜を増やすことについて。

町長 現在河津桜は、溝延橋下流に2本植栽している。ソメイヨシ

ノの寿命は60年と言われており健全な生育維持の管理を継続しつつ、植え替えの際には河津桜を含めた様々な品種の植栽を検討していく。



サクランボの箱詰め作業

要支援者に対する 避難支援の検証は 避難支援の 実態把握に努める



榎 正義 議員

個別計画による 避難支援の検証を

問 昨年7月豪雨災害時の避難行動要支援者の個別計画書に基づいた避難支援の実態を検証しているか。

町長 要支援者の個別計画による避難支援の実態把握は行っていない。ご指摘もあり実態把握に努める。

※避難行動要支援者とは、災害時に自ら避難することが困難な75歳以上の高齢者や障がい者の方

国内唯一の紅花資料館
問 入館者は、年々減少している。
アフターコロナを見据えた対策はどうか

町長 厳しいコロナ禍のなか、小中高校の修学旅行による来館者は16校あった。
学芸員、館長を新たに配置、日本遺産・山寺を支えた紅花文化に

関連する広域観光にも努力し、入館者の回復を図っていく。

いもこ列車と 児童動物園の連携を

問 いもこ列車運行と児童動物園の連携した取り組みで、賑わいのあるまちづくりを考えるべきではないか。



いもこ列車運行と児童動物園との連携を

町長 動物ふれあい体験が再開された際に、

いもこ列車運行日も合わせ、一部動物を中央公園に出張させることが可能か検討してみた

問 谷地軌道列車の歩みともいもこ列車の運行を関連付け、郷土の活

きた学びを小・中校でできないかと考える。

町長 いもこ列車について、小学3年生の社会科の副読本として探究型学習の教材として取り上げている。引き続き学び続けていくよう努めていく。

唯一無二の観光を

価値を高めるために
多角的に検討



阿部 恭平 議員

問 コロナ禍で、近場への観光の価値が見直されている。

他自治体との差別化が求められる。唯一無二のコトやモノが必要だ。

例えば、スリッパを全種類並べて試し履きが出来場所など。実行する人材も必要だ。

町長 観光資源の価値を高めるために、多角的に検討していく。

地域おこし協力隊やSNSなどのコミュニティでの発信を通して、人材確保に努めたい。

資料館の利用緩和を
問 町民から良さを知ってもらうために、資料館内の施設利用を緩和しては。

商工観光課長 八景庵から検討していく。

まず行政が

飲食店の利用を

問 行政が飲食店を利用し、コロナ禍での利用方法を町民に伝えていくなど、飲食店を利用しやすくなるような雰囲気作りが必要では。

町長 県の新型コロナウイルス対策認証基準制度の周知をしている。また、かほくほくほく応援券で町の消費を促す。

副町長 状況に応じて、検討していきたい。

河北町建築物耐震改修促進計画の改定を

今年中の改定に向け作業を進める



齋藤 隆 議員

耐震性が不足する

住宅の改修を急げ

問 平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では、死者6434人の8割以上が木造住宅の倒壊による圧死や窒息死だった。

昭和56年5月31日以前に建てられ、耐震性が不足する住宅の耐震改修を急ぐべきだ。

令和3年度から令和12年度までを計画期間として改定した「山形県建築物耐震改修促進計画」に対する認識はどうか。

町長 「山形県建築物耐震改修促進計画」は地震による住宅・建築物の倒壊等の被害を最小限に抑え、県民の人命や財産を保護するため、県、市町村及び関係団体が連携して耐震診断・改修等を促進することを目的として平成19年1月に策定。その後2度の改定に続き、今年3月に内容の見直しが行われた。

住宅の耐震化率の目標値を改定前は令和2年度で95%、改定後は令和12年度で90%としている。

住宅全体の耐震化が難しい世帯に対しては、寝室や居間の部分補強、耐震ベッドの設置による



いのちを守る耐震ベッド(例)

減災対策を進め、最低限生命を守る改修を含めた耐震化率の目標を95%としている。

いつ地震が発生してもおかしくない

問 本町は山形盆地断層帯に位置しており、いつ大規模地震が発生してもおかしくない。

県の改定に伴い、「河北町建築物耐震改修促進計画」を見直すべきだ。

町長 統計調査や県計画の内容を反映させ、「河北町建築物耐震改修促進計画」の今年中の改定に向け作業を進めていく。

令和3年度一般会計予算は15億2336万円

西村山広域行政事務組合議会

3月24日、寒河江市議会会議場で第1回定例会を開催しました。提案された議案は6件です。

①令和2年度一般会計補正予算(第2号)について

人事異動、県人事委員会勧告に伴う給与改定を踏まえ、人件費を精査。2088万円を減額し、歳入歳出予算総額をそれぞれ15億8107万円とするもの。

②令和2年度寒河江地区クリーンセンター、斎場特別会計予算について

予算総額は、歳入歳出それぞれ11億843万円、前年度当初予算と比較して1億110万円の増。

③令和3年度交通災害共済特別会計予算について

予算総額は、歳入歳出それぞれ2039万円、前年度当初予算と比較して655万円の減。

④火災予防条例の一部改正について

対象火気設備等の位置構造・管理、対象火器具等の取扱いに関する条例の制定に関する基準を定める省令の一部改正に伴い、所要の改正をしようとするもの。

いずれも原案の通り可決しました。

区クリーンセンター、斎場特別会計予算(第2号)について

一般会計と同様に人件費を精査。316万円を減額し、予算総額を9億9902万円とするもの。

③令和3年度一般会計予算について

関係市町の財政事情を考慮し、計画的な事業の執行と健全財政の堅持を念頭に、事務事業の遂行に万全を期すことを基本として予算編成したものを。

予算総額は歳入歳出それぞれ15億2336万円。前年度当初予算と比較して9403万円の減。

④令和3年度寒河江地区クリーンセンター、斎場特別会計予算について

予算総額は、歳入歳出それぞれ11億843万円、前年度当初予算と比較して1億110万円の増。



スリッパ全種類の試し履きを

防災用品や設備に

補助を

問 災害はいつ起こるか分からない。個人や事業所に防水シャッターなどの用品や設備に対する補助も必要では。

まちづくり推進課長 具体的な施策や企画はない。既存の団体に協力をお願いするのもありえるかもしれない。

防災危機管理主幹 検討していく。



広域消防の出動訓練

賛成...○ 反対...● 欠席...欠 (議長は採決には加わりません)

審議結果 議員の賛否一覧

(6月定例会) 議第41号~46号は令和3年5月臨時会

Table with columns for 議案番号, 件名と主な内容, 議決結果, and 議員名 (1-12). Rows 41-60 contain various budget and ordinance items.

地域に合わせた防災訓練を

総務産業常任委員会

5月24日に町から令和2年7月豪雨の災害対応について、議会全員協議会に課題検証の報告がありました。

避難勧告、避難指示等のタイミング

水位情報をもっと早く欲しかった。情報があれば家財避難などができたが、田井・杉の下では避難指示のタイミングが遅く、避難指示の前に溢水していた。

町の検証

避難勧告の発令は避難行動が必要な地域を特定し、避難準備・高齢者等避難、避難勧告等と段階的に発令する

ことを原則とする。溢水が確認された支

流河川の避難情報は、河川監視カメラの活用等水防団や町職員による現地状況を踏まえた避難情報の発信が必要。堤防の決壊や越水・溢水を把握した場合は直ちに警戒レベル5の災害発生を伝え、命を守る行動を指示し、情報収集・伝達の連携を徹底すること。

委員会の意見

時間的余裕と、緊迫感がある避難指示が出るか。高い所に家財を避難させ、安全に避難するには、地域に合わせた避難訓練が必要。

避難情報、避難行動、避難体制、避難所開設・運営

地区懇談会の意見 溝延地区では避難所の指定が変更になり、



押切地区民も参加した水防訓練

移動するのに苦労した。避難時の持ち物について指示がなく、多くが手ぶらで避難した。自主防災組織が機能しなかった。

町の検証

指揮系統をしっかりと避難所の開設や運営に当たる職員の配置など事前の準備が不十分であり、避難所開設や受け入れに関し混乱が生じた。

委員会の意見

地域ごとに、災害を具体的に想定した訓練が必要。地域と災害に応じた持ち出し品リストを。

町職員の平時の防災研修、災害時支援のあり方

地区懇談会の意見 災害廃棄物の分別な

防災情報の発信

地区懇談会の意見

横川では、水門を閉めると溢水するので、水門を閉めたらサイレンなどで地区民に連絡をするようにすべきだ。押切地区で排水機場を止めて避難が始まり、水位が上がっていたのに、改目地区では誰も知らなかった。

町の検証

多様で効果的・効率的な情報発信について研究し、訓練をする。防災行政無線のテレホンサービスや防災ラジオの周知、普及と充実をはかる。

委員会の意見

防災行政無線や配布されている無線機が事実上機能しなかった。新規に稼働した防災ラジオや防災テレホンサービスは、今後とも充実させること。ボランティアセンターとの情報共有を。